

## 子どもが安心して学び続けられる体制づくり

田村憲夫

教育現場で、子どもが安心して安全に学び続けられるための危機管理要綱を定期的に見直しているか。仮に、子どもを対象とした事件・事故が発生した場合にこれまで当然とされた危機管理時系列通りの対応策を漫然と繰り返してはいないか。

常に、子どもを狙う事件は模倣性かつ巧妙な手口が見られます。痛ましい事件を阻止するための防犯対策として、第一に掲げるのは、教育委員会（以下「同会」）と学校との関係が最も重要で、その中で同会の役割は、いずれかの教育現場で事案が発生した場合、対象学校の状況に応じて適切な判断を迅速に下せるよう広範囲から情報収集を行い現場に伝えるとともに、必要なソースを提供することで学校が安心して事案の対応がスムーズに出来尚且つ、現場で判断に迷ったり、状況が厳しくなった際に同会に相談しやすい関係づくりを構築することが重要だと思います。

第二に、同会及び学校側が保護者と並びに地域で活動するボランティア活動者との信頼関係を築くことです。現在、ボランティア活動する組織で、しかも子ども達と日常接触する組織を紹介すると、福島区に「高齢者・子ども見守り隊」の活動があります。見守り隊が子どもの見守り活動を行う事によって、保護者及び学校関係者はとても心強く、更に、懸命に子供を見守る隊員の姿を見てボランティア活動に対する思いが良い方向に変化しつつあることを確信するとともに、教育現場で子ども達が安心して安全な学校で最高の教育が受けられるよう継続的に危機管理対策を構築し続け、ひたすら進み突発的な事案発生に対しては各諸法令を駆使し、現場における初動措置がとれる現場に強い教育委員を目標としたい。